



MOBILE SUIT
MSM-04

ACGUY

PRINCIPALITY OF ZEON
MASS-PRODUCTIVE
AMPHIBIOUS MOBILE SUIT



ジオン公国軍
量産型水陸両用モビルスーツ
MSM-04「アッグイ」
1/100スケール
マスターグレードモデル

MSM-04 ACGUY

PRINCIPALITY OF ZEON MASS-PRODUCTIVE AMPHIBIOUS MOBILE SUIT



ジオン公国軍
量産型水陸両用モビルスーツ
MSM-04「アッグイ」
1/100スケール
マスターグレードモデル

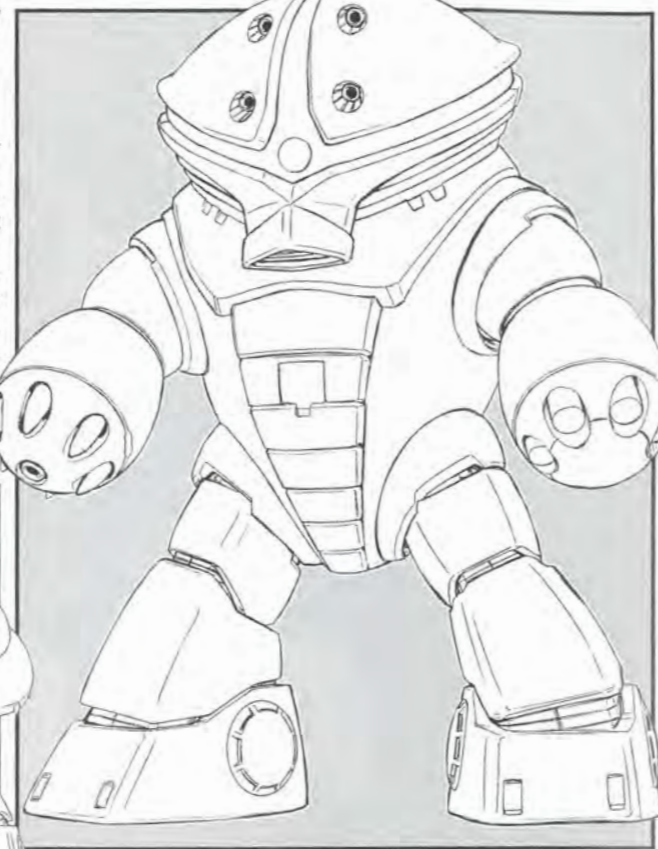
BANDAI 2005 MADE IN JAPAN



0134108

MSM-04 ACGUY

MSM-03 ゴッグの量産化に成功した公国軍は、更なる高性能水陸両用機、後のMSM-07 スゴックの開発に着手する。続いて、ゴッグよりも小型軽量で調達が容易な機体として、MSM-04 アッガイの開発がスタートした。この機体は、多くの部品をMS-06J ザクIIから流用しているため開発も順調に進んだ。また、複座式のコックピットが採用されているのが特徴で、水陸両用MSの訓練機として使われる事も多かったと言われている。ジェネレーターは、開発、生産、運用等の各種コストを削減する為、06Jのものをそのまま転用する予定であったが、その際開発陣は、水陸両用MSが根本的に持つ矛盾に直面する。まず、水圧に耐えるためには強固な機体構造と強靭な装甲が必要だが、自重の増加は陸上での運動能力の低下を招く。陸上で機体の機動性を向上させる為には高いジェネレーター出力が必要となる。しかしアッガイのコンセプトは「ゴッグよりも調達が容易な水陸両用MS」の開発で、大出力ジェネレーターの新規開発などは想定外であった。そこで、ザクのジェネレーターを2基搭載する事とし、それぞれは搭載スペース確保のため規模を縮小、トータルでゴッグにやや勝る程(ザクの2倍程度)のジェネレーター出力を確保したのである。機体サイズこそゴッグとほぼ同じであったが、生産性や運用コストはゴッグと比較にならないほど低く抑えることが可能となった。さらに、大出力が必要なのはあくまで陸上活動時であるため、水中航行時には稼働するジェネレーターを1基として、いわゆる「片肺航行」が可能となった。その際、機体から発生する廃熱量は水陸両用MSとしては考えられないほど低くなり、熱センサーに感知されにくいというメリットが確認された。そこで、機体全体の装甲に電波吸着剤などによる加工が施され、機体色も湿地などにおける視認性が低いダークブラウン系のステルス性の高いものがデフォルトとなっている。機体形状も同様に配慮されており、航行時にソナーなどのセンサーに表示されるシルエットは、一見、鯨などの海棲生物と見分けがつかなかったとさえ言われている。かくしてアッガイは水際の偵察任務などの、隠密性が必要とされる局面で頻繁に使用される事となった。



Conceptual illustration : Katoki Hajime

MSM-04 ACGUY

①メインカメラ	⑥フレキシブル・ペロクス・リム	⑪オーバーホールハッチ	⑬バーニアスラスタ
②105mmバルカン砲	⑦アイアンネイル/クロー	⑫レッグスライドユニット	⑭メンテナンスハッチ
③インテーク/エキストラクター	⑧ショルダーユニット	⑬センサーアレイ	⑮ネックフリュイドセンサー
④機関砲	⑨コックピットハッチ	⑭メンテナンスハッチ/パイロードスペース	⑯トップ・レッグ・アーマー
⑤6連ミサイルランチャー	⑩バックパック	⑮アンクルフリュイドセンサー	⑰ボトム・レッグ・アーマー (※フリュイド=流体)

注) この機体は、カリフォルニア・ベースのZEONIC工廠(こうしょう)において生産された、いわゆる「中期量産型」と呼ばれる仕様の機体である。南米大陸周辺から東南アジア沿岸部を中核とするほとんどの海域において、偵察、作戦拠点の確保など、公国軍の水際作戦展開などに貢献した。公国軍の水陸両用MSのなかでも、この機体の運用局面は多岐にわたっていた。

注意

必ずお読みください

- この商品の対象年齢は15才以上です。(鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。)
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れてください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

※このキットの組み立てには+(プラス)ドライバーを使いますので別にご用意ください。

切り取る時注意	シールの番号	3部品の向き	反対側に取り付けるパーツ	部品に穴の位置を合わせる	向きに注意して取り付ける	ビスの締めすぎに注意
切り取る時注意	部品を数値の個数作ります	先に組み立てます	後に組み立てます	正確に合わせず戻さず	どちらかを選んで取り付ける	反対側も同じように動かし

組み立てる時の注意

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

パーツリスト

A/パーツ (スチロール樹脂: PS)	B/パーツ (スチロール樹脂: PS)	C/パーツ (スチロール樹脂: PS)
D/パーツ (スチロール樹脂: PS)	E/パーツ (スチロール樹脂: PS)	F/パーツ (スチロール樹脂: PS)

【部品表】 PARTS LIST
 【基本説明】 HOW TO
 【胸】 BODY UNIT
 【頭】 HEAD UNIT
 【腕】 ARM UNIT
 【脚】 LEG UNIT
 【完成】 FINAL ASSEMBLY
 【ディスプレイスタンド】 DISPLAY STAND
 【オプション】 OPTION
 【シール】 SEAL

Gパーツ (スチロール樹脂: PS)

Hパーツ (スチロール樹脂: PS)

Iパーツ (ABS樹脂: ABS)

Jパーツ (ABS樹脂: ABS)

Kパーツ (スチロール樹脂: PS)

Lパーツ (スチロール樹脂: PS)

Mパーツ (ポリエチレン: PE)

Nパーツ (スチロール樹脂: PS)

Oパーツ (スチロール樹脂: PS)

マーキングシール……1枚
 ガンダムデカール……1枚
 ビス……4本
 スプリング……1個

組み立て前の基本説明

必要な道具

〈ニッパー(プラスチック用)〉
 ・パーツをランナーから切りはなしてゲートを取るのに使います。

〈ピンセット〉
 ・小さい部品を取り付けたりシールを貼るのに便利。

〈はさみ〉
 ・ガンダムデカールを切りはなす際に使用します。

〈+(プラス)ドライバー〉
 ・ビスを締める際に使用します。

※この商品に道具類は入っていないので、別にご用意ください。

説明書の見かた。

説明書のパーツに書いてある番号と同じものをランナーから探しましょう。(パーツリスト表と合わせて見ると、探しやすいでしょう。)

1 【胸部の組立】
 (1) BODY UNIT

プレート
 J6
 パーツ番号

パーツの切り取りかた。

①まず、パーツから少し離れた位置にニッパーの刃を入れて切り取ります。

ランナー
 パーツ
 ここを切る

ゲート

②パーツを切り離して持ちやすくなったところでゲート跡の処理に入ります。

パチン

③ニッパーの刃をパーツに密着させてゲートを切り取れば、きれいに仕上がります。

ドライバーの選び方

※ビスに合ったドライバーをご使用ください。サイズの合わないドライバーを使用するとビスを破損してしまう場合があります。

ガンダムデカールの貼りかた。

①ガンダムデカールは、転写するマークを保護シートと一緒にマークより大きめに切り出してください。

保護シート

②保護シートをはがし、貼る位置を決めてから、ずれないようにセロハンテープ等で固定し、マークの上からボールペン等の先端の丸い物でこすりつけて定着させます。

③シートを静かにはがし、デカールが定着していない部分が残った場合はシートを元に戻し、その部分を再度こすりつけます。

※デカールを貼り間違えた場合は、セロハンテープ等ではがしてください。

説明書をよく読んで完成させましょう。

胸部 [BODY UNIT] 1

頭部 [HEAD UNIT] 2

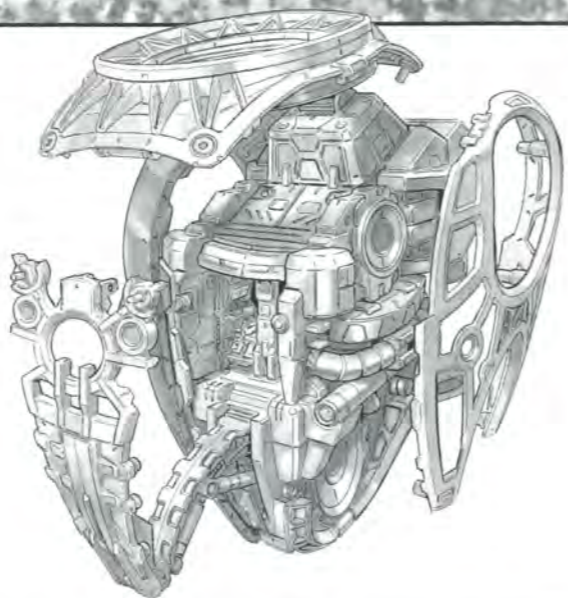
腕部 [ARM UNIT] 3・4・5

脚部 [LEG UNIT] 6・7

BODY UNIT 〔胸部〕

アッガイのボディユニットは、水陸両用MSとして開発されたわけではなく、基本的にMS-06Jの部材を水中でも使えるようにしたものだと言える。その基本フレームはザクのものそのまま流用されている場合も多く、特にコックピット周りなどは、シートスライド機構を廃止し、ほぼそのままで複座式とされている。

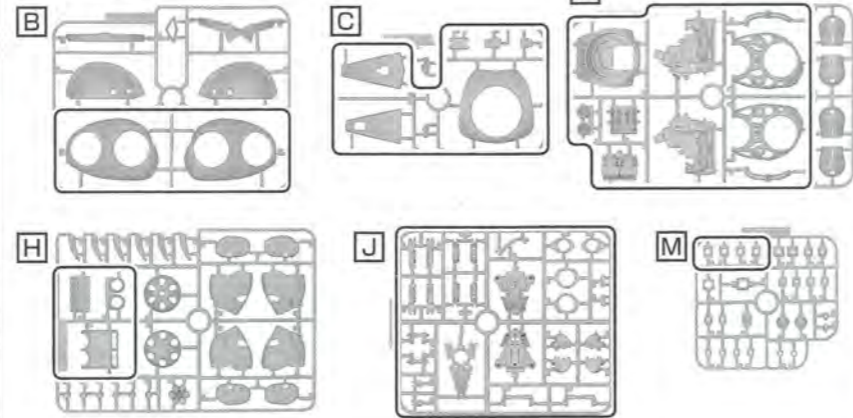
アッガイは水陸両用MSとはいえ、ゴッグやズゴックなどのように複数のビーム兵器のドライブは想定されていなかった。その反面、ゴッグに匹敵するほど開き直った設計思想に基づいていたということができる。つまり、駆動用の部材などにはザクのものを流用し、航行用に必要なのは、並行して開発されていた機体の物を流用、あるいはノックダウン生産してでも調達し、どうしても間に合わないものは、緊急時に使用する熱核ロケットスターなどの既製品をそのまま流用するのである。腕部のペロウズリムは、ZIMMADやMIPなどの共同開発に近かったため技術は公開されていたし、歩行脚にしても、機構のほとんどはザクの流用で事足りていた。むしろ、2基搭載したジェネレーターのコンタクトデバイスや、余圧殻の設計の方がよほど困難だったと言われている。さらにZEONICは、胴体すべてを水密構造とするのではなく、およそ三段階の基準で隔壁を設け、それぞれのバルクヘッド（一定間隔で機体を区切り防水壁とする）に優先順位を割り振ったのである。つまり、一滴の水の侵入も許さない部位がある一方で、頻りに海水などが出入りする区画もあるのである。これは、ゴッグの設計思想とは正反対だということもできるだろう。実際、アッガイの“探知されにくさ”は、こういった構造に由来するとまで言われている。



1 BODY UNIT

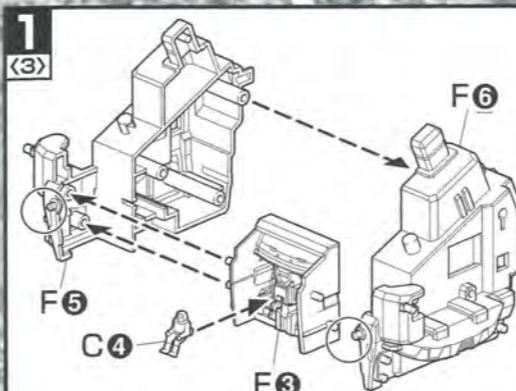
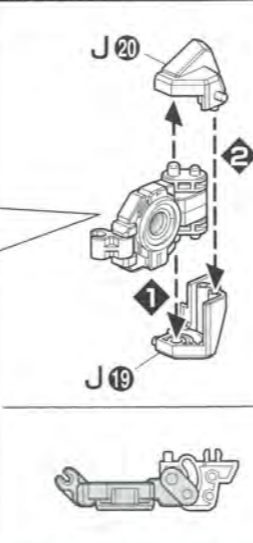
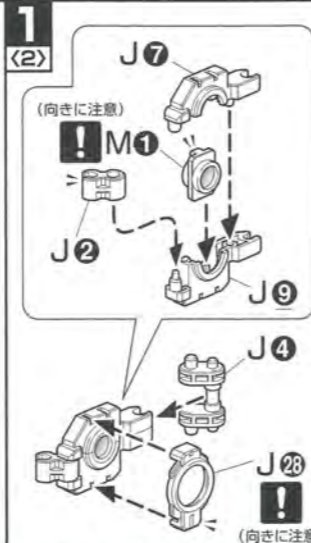
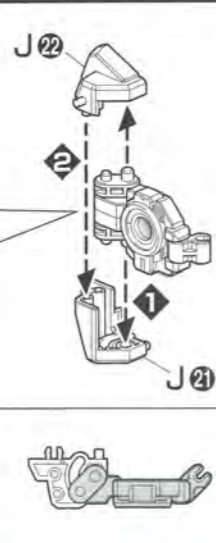
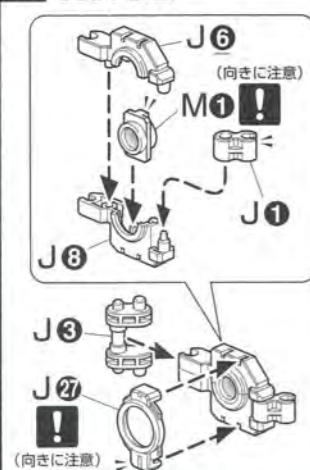


・組立1で使用するパーツ

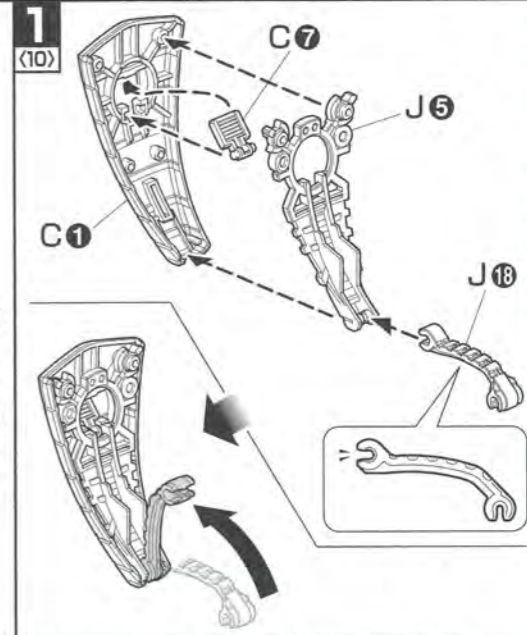
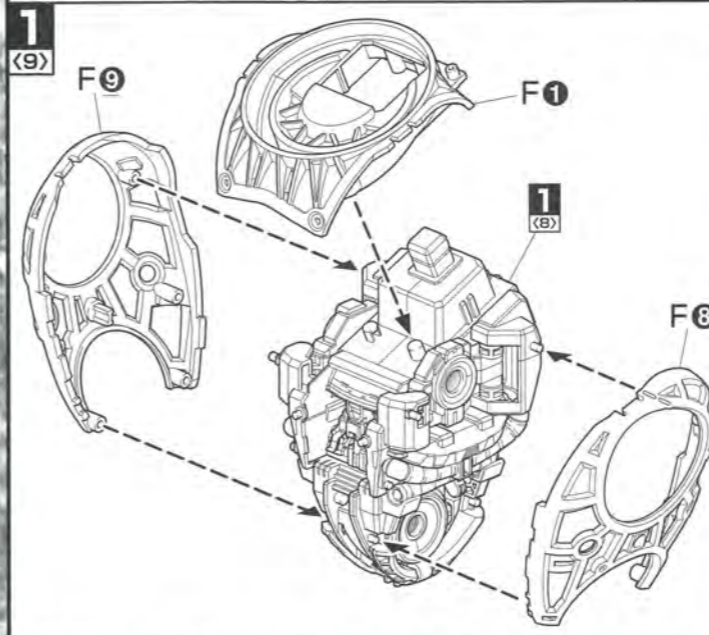
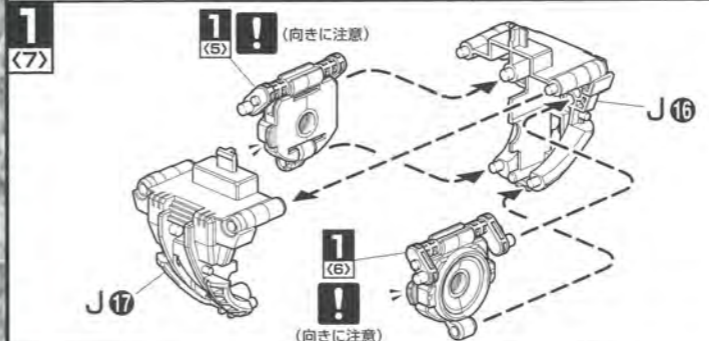
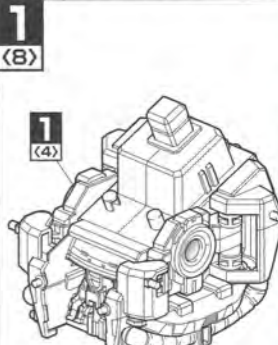
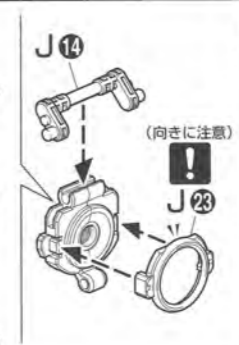
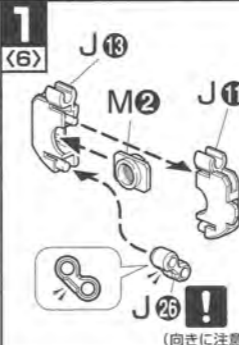
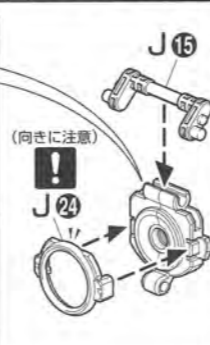
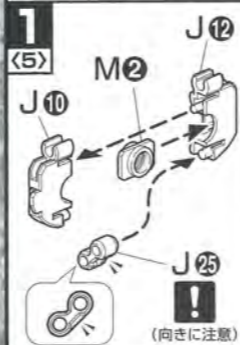
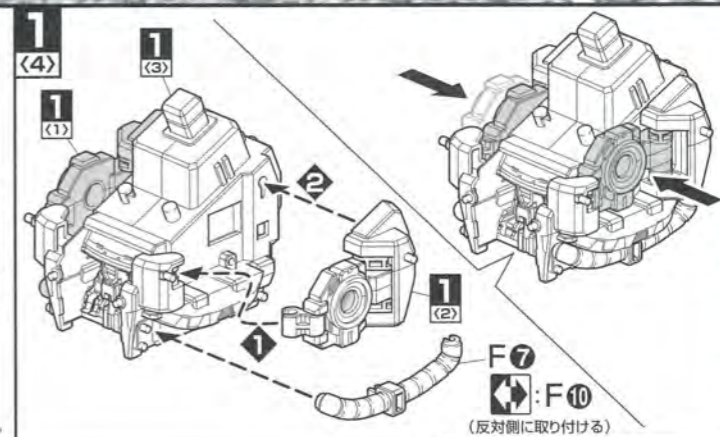


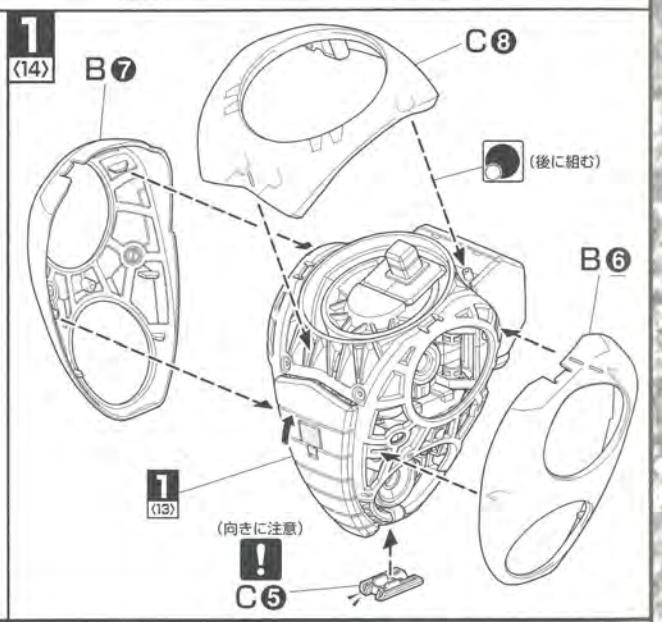
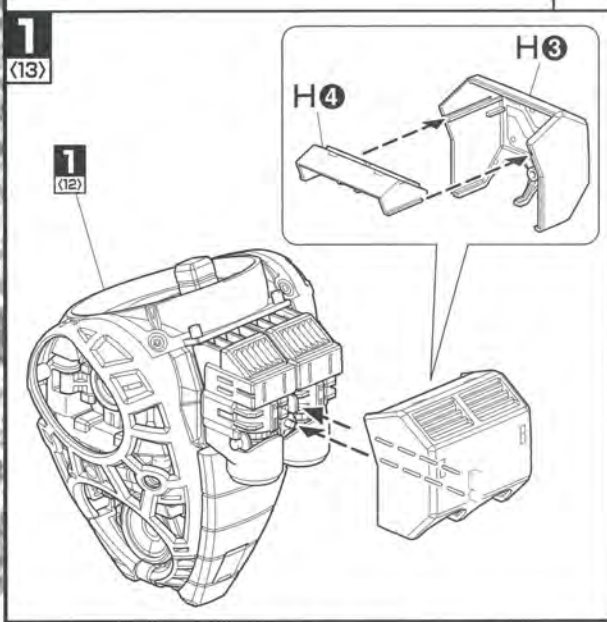
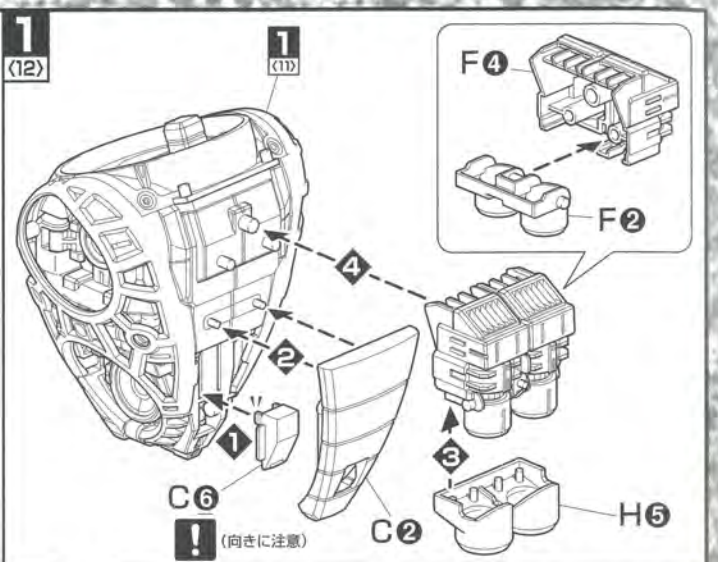
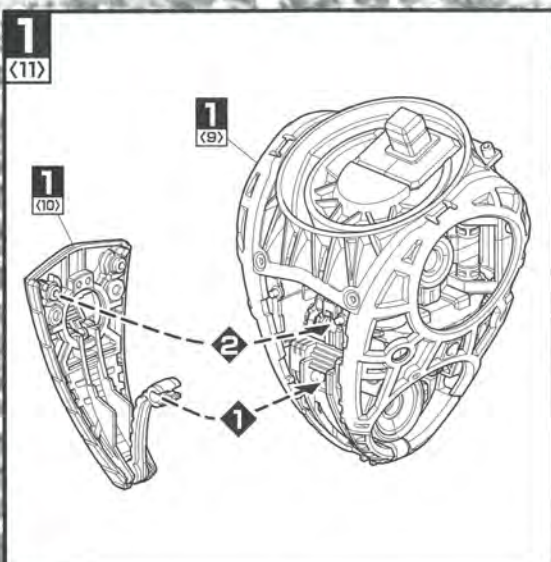
1 〔胸部の組立〕

〔1〕 BODY UNIT



※Oの部分をゲートと一緒に切らないように注意してください。

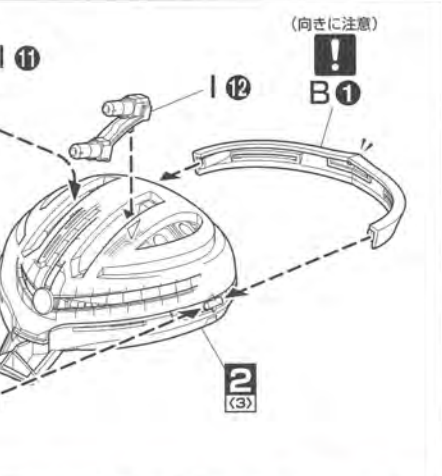
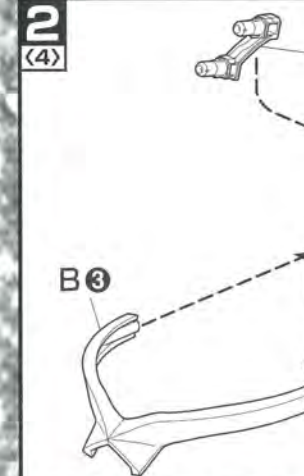
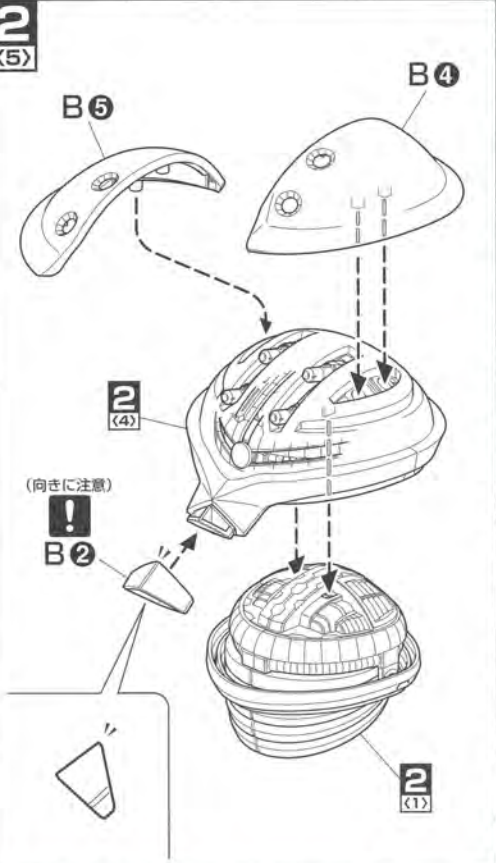
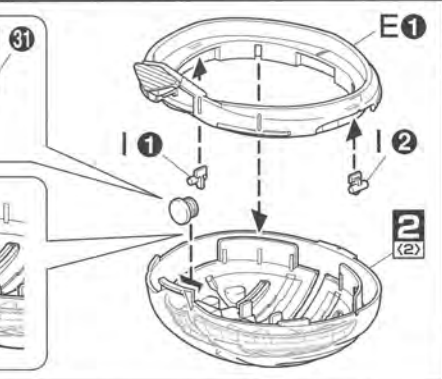
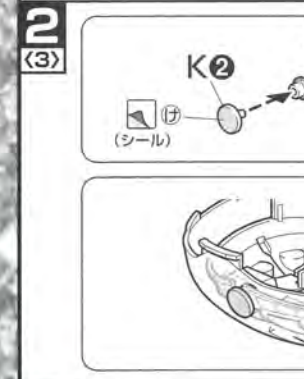
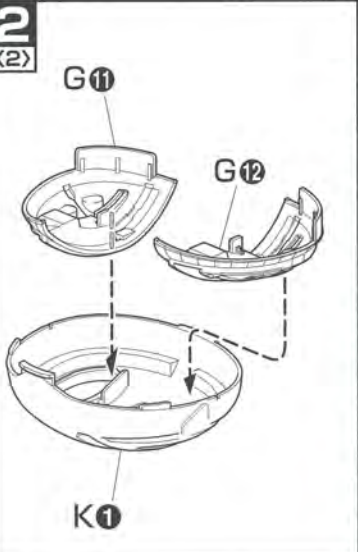
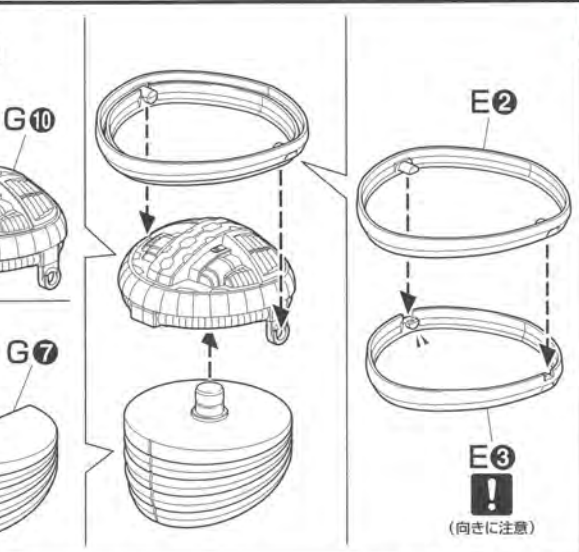
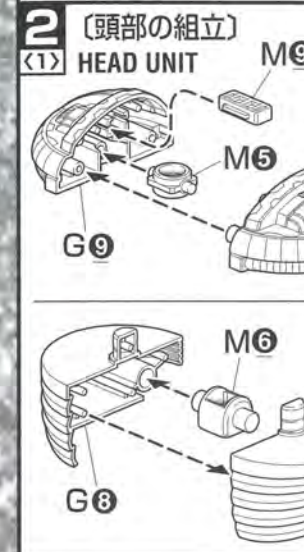
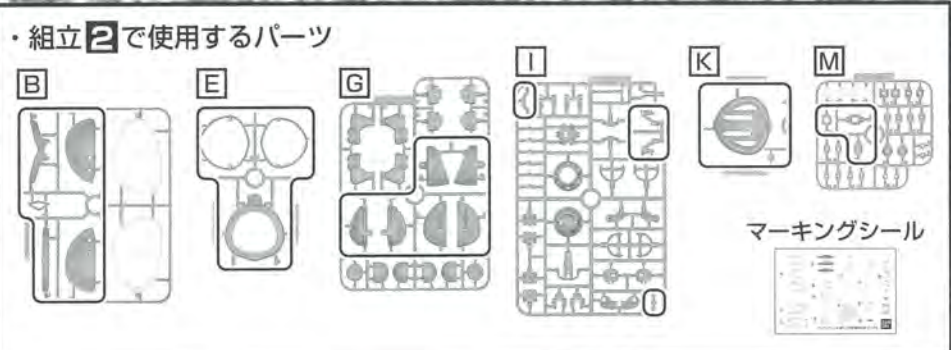
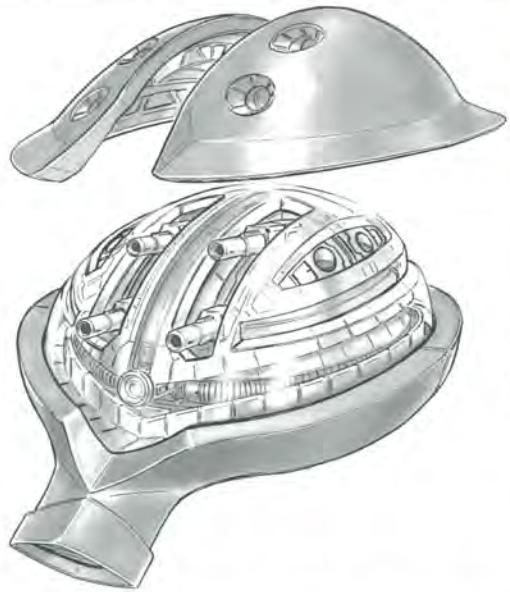




HEAD UNIT (頭部)

アッグアイのヘッドユニットは、推進や駆動以外のほとんどの機能が盛り込まれている。4門の105mmバルカンを取り囲むようにレドーム状のセンサーアレイとモノアイ軌道が配置された構造となっており、さらに、航行時と陸戦時の双方に対応した水冷/空冷のラジエーターシステムを持っている。

アッグアイのヘッドユニットは、本体内に水陸両用機に必要な機能をまったくといっていいほど盛り込めなかったため、センサー類などをはじめとして水中の行動に必要な装備のほとんどが集中している。そのため、他の機体と比較して非常に巨大なユニットとなっていた。ただし、そのように機能分化を徹底したため、逆に建造、運用におけるコストなどの面で非常に優秀な機体となったのである。流速計や深度計など「航行」に必要なセンサー類にこれといった特徴はないが、レーダーやソナーなど、戦術に必要なセンサー類は、いわゆるEWAC機に匹敵するスペックを達成している。これは、専用機のように高精度な部材を開発するのではなく、標準的なスペックのものを円環状に複数配置することで、その組み合わせによって精度やレンジを向上させるという手法を採っている。その中央部にバルカン砲としては口径が大きい105mm機関砲を据えつけ、それらをブロックごとに水密処理したうえで、モノアイの軌道で取り囲む。この構造は試作の段階から踏襲されており、バリエーション化の際には、頭部ブロックごと換装することで、特性の異なる機体とすることが可能となったのである。





DESTROY TOCHKA

「ポイントB3、現在までのところまったく異常なし。ジオンの定時爆撃、例のごとし」「了解」アマゾン川のいくつもの支流の合流点に建てられたトーチカで、いつものように報告を終えた兵士は同僚にグチをこぼしていた。「こんな辺鄙（へんぴ）な所で定時報告もくそもあるかって」「ぼやくなぼやくな。あちらさんだって給料いただく為にパトロールやってんじゃな、……ああっ!!」「どうした? うっ!!」同僚の視線を辿った兵士の視線の先でモノアイが仄かに光る。定時爆撃の音と震動に紛れてか、いつものまにかトーチカのすぐ外まで迫っていたアッガイは、兵士たちが気付くが早いか、その腕を振り下ろしていた。トーチカを破壊したアッガイが合図を送ると、後方の森の奥から真紅のズゴックとさらに数機のアッガイが出現した。シャア率いるこの特務部隊は、河口から遡上した地点で上陸し、ジャブローへと深く潜入ポイントまで接近に迫っていた。



SUBMERGE DEEPLY AND QUIETLY

U.C.0079年11月30日。連邦軍の本拠地であるジャブローへの公国軍による一大攻勢は、いつもと同じような定時爆撃から始まった。しばらく前から頻りに行われていた散漫な対地攻撃は、依然として公国軍が、ジャブロー基地の全容を測りかねているかのようなのであった。そのせいだろうか、ジャブロー基地の警戒システムの、特に片線で監視任務に就いている兵士たちは、この爆撃をいつものこととして弛緩していた。まるで公国軍による基地内への侵入など無かったかのように。シャアを指揮官として新たに編成されたMS部隊は、まるでその隙を見透かしたかのように上陸地点を目指す。シャアの赤いズゴックと数機のアッガイは、空爆を機動としてジャブロー基地に潜入し、基地内で破壊工作を敢行しようとしていたのである。ジャブローの警戒水域に迫ったアッガイは、熱核水流ジェット推進からステルス推進にモードを変更し、あたかも海棲哺乳類が泳いでいるかのように胸をくねらせながらジャングルの岸辺に近づいた。もしもこの状態でソナーに捕らえられたとしても、大きめの魚群か、あるいはクジラでも迷い込んだのかと思われたらどうだろう。まさしくアッガイはそのような運用を目的として開発されていたのである。



NOTE TO SLIPPING

ジャブローの坑道に潜入したMS部隊のパイロットたちは、開けた場所に到着するとMSを降り、ジャブロー基地内部で破壊工作を実施すべく、アッガイのつま先の汎用ペイロードスペースから取り出した迷彩スーツに着替え、身支度を整える。「シャア大佐、準備できました」「アカハナ」のコードネームと呼ばれる大柄な兵士が申告する。「よし、行くぞ」特務部隊は、アカハナの隊が連邦製のMS工場を、シャアの隊はホワイトベースとドックをそれぞれ破壊するため二手に分かれた。さらに内部へと深く坑道を進むアッガイと、人の声が聞こえた。「ん?誰か来るぞ」「ラムジ」が注意を促す。「待て、子供のようなだ」「イワノフ」はこの面倒をやり過ごすべく岩と岩の間にアッガイの身を潜めさせる。「さ、キッカ」「あれ……」「カツ、すべるぞ、気をつけて」、三人の子供がアッガイの頭部を這り過ぎるのを待って、イワノフはアッガイのモノアイを瞬だけ稼働させる。ピゴーン、「……ん?」気配を察したのが、半ズボンの子が振り向き、と、赤いオーバーオールの子に促され、その場を離れていた。「……ヒヤヒヤさせやがるぞ」額を拭きながら、ラムジとイワノフはようやくくひと息ついた。ガンダムの置産工場を破壊するまでは、こんな所で誰かに見つかって作戦を台無しにするわけにはいかない。

CUSTOM MODEL キミだけのカスタムモデルに仕上げよう!! ■イメージを広げてみよう!!

■ウェザリングをしてみよう!! ■名シーンを再現!!



ウェザリングマーカー等(別売り)を使ってウェザリングに挑戦してみよう!!土や泥等の汚しが似合う水陸両用MSならではの雰囲気が出て、グッと立体映えるぞ!!



付属のフィギュアを使って劇中の名シーンを再現!!さらにディスプレイベースやエフェクトパーツを使い、大迫力の水中シーンのジオラマを作り込んでみるのも楽しいぞ!!

■カットモデルに挑戦!!



外装や内部の一部をカットして、切り口に色を塗れば、内部構造が分かるカットモデルの完成だ!!こういった改造がカチッとくるのも、内部フレームがしっかり作られたMGシリーズの特徴だ。他の機体でも試してみよう!!



他にも付属のオリジナルデカールや図の迷彩見本を参考にして、自由な発想で自分だけのカスタム仕様のアッガイにチャレンジしてみよう!!

©創通・サンライズ

PAINTING

※よりリアルに仕上げたいかたは、下の基本色をご覧ください。
※塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
●このキットをよりリアルに塗装したいかたは、(株)GSIクレオスより発売のガンダムカラー(「MG アッガイ」用、その他カラーセット)をお使いください。
●ABS樹脂部分への塗装は破壊する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。

本体等ブラウン部の塗装色。
ココアブラウン(90%) + ブラック(10%)

腕部等グレー部の塗装色。
ライトブラウン(40%) + カーキ(30%)
ガルグレー(15%) + ホワイト(10%)
ブラック(5%)

内部フレーム等グレー部の塗装色。
ニュートラルグレー(40%)
+RLMライトブルー-65(40%)
+エアクラフトグレー(20%)

バックパック等グレー部の塗装色。
ニュートラルグレー(90%)
+ブラック(10%)

モノアイピンク部の塗装色。
蛍光ピンク(100%)

■ワンポイントステップ スミ入れしてみよう!

ガンダムマーカー/スミ入れ用(別売り)などを使用して、ミノの所に線を引くことで、模型が引き締まります。



カツ・レツ・キッカ

肌色の塗装色。
はた色(100%)

髪(キッカ)等
イエロー部の塗装色。
イエロー(100%)

髪(キッカ)等
水色部の塗装色。
すみれ色(70%)
+ホワイト(30%)

髪(レツ)等
レッド部の塗装色。
シャインレッド
(100%)

髪(カツ)等
グリーン部の塗装色。
イエローグリーン
(100%)

カツ等黄土色部の
塗装色。
ライトブラウン
(100%)



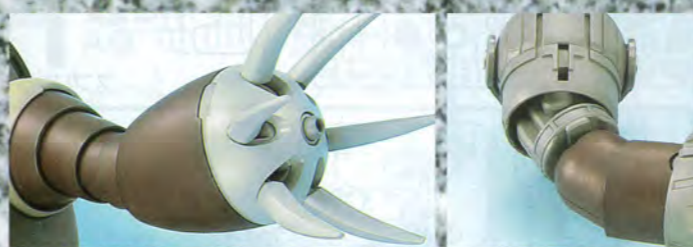
パイロット/ダイバー/クルー

パイロット
ブラウン部の塗装色。
ココアブラウン
(100%)

ダイバー
ブラック部の塗装色。
ブラック(100%)



▲右腕のクローはスプリングアクションでスイッチ(砲口)を押して展開。



▲腕部には伸縮ギミックを採用。幅広い可動範囲を両立して様々なポーズが可能。

▲潜水艦をイメージした、専用のディスプレイベースが付属。スタンドの角度は調整可能。エフェクトパーツやダイバーをセットしてディスプレイすることが可能。



▲設定を裏付けた多重構造の内部機構を再現。補強フレームをモチーフにしたディテールを追加。



▲様々な表現のエフェクトパーツが付属。



▲複座式コックピットを精密に再現。

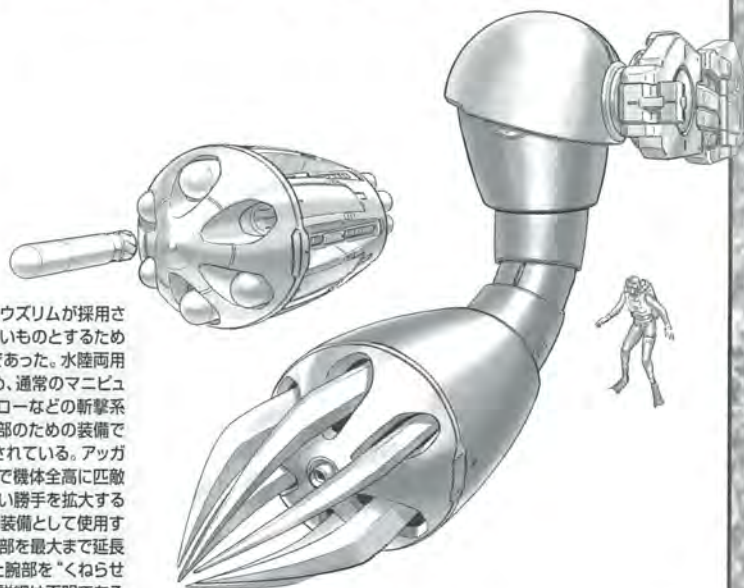


▲各部に水陸両用MSならではのディテールを再現。

ARM UNIT 〔腕部〕

アッガイの腕部は、他の水陸両用MSの特徴となる環状の装甲に覆われた柔軟な可動肢と、隠蔽式のクロー状アイアンネイルによって構成されている。基本的な仕様は、機関砲とクローのもの、6連ミサイルランチャーを内装するもの、メガ粒子砲を搭載したものを左右で配置するが、別のユニットや左右を交換して装備することも可能であった。

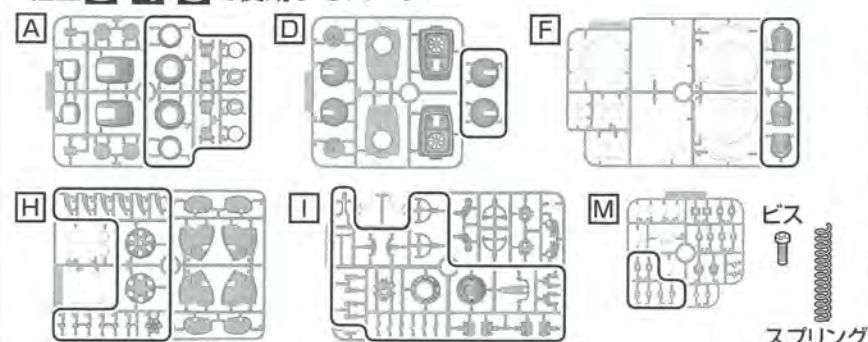
アッガイの腕部にも、自由度の高い複数の関節で構成されたペロウズリムが採用された。ただしこれは、ゴッグのように航行時の形状特性を抵抗の少ないものとするためというより、むしろ陸上での戦闘に対応するために採用されたものであった。水陸両用MSは、機体運用の問題からオプション兵装の携行が困難であるため、通常のマニピュレーターに代えて機関銃やミサイルなどの火器を内装し、あるいはクローなどの新撃系の武装を採用することとなっていた。ただし、これらはあくまで前腕部のための装備であり、フレキシブルペロウズリムは、肘から肩までの構造として採用されている。アッガイのものは1ブロックあたりのユニットがゴッグのものより長く、最大で機体全高に匹敵するほどのリーチ長を獲得している。このことは、前腕部の武装の使い勝手を拡大するばかりでなく、例えば坑道のような閉鎖空間においては補助的な移動装置として使用することが可能であった。ちなみに、アッガイの水流抵抗に関しては、腕部を最大まで延長していた方が特性が優れていたとさえ言われており、実際に伸長した腕部を“くねらせて”推力を得ることも可能だったという説さえ存在するものの、その詳細は不明である。



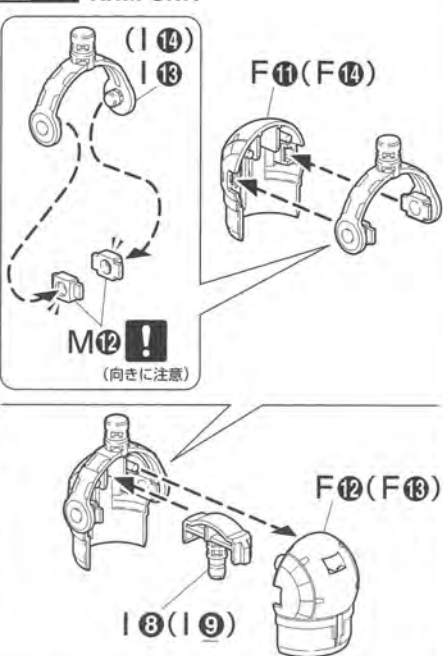
3 ARM UNIT



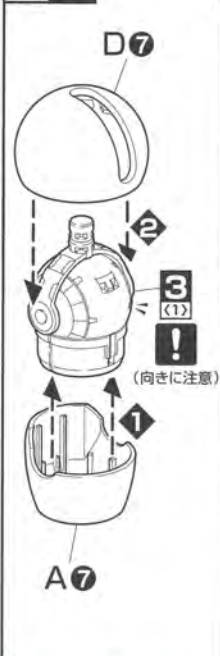
・組立3・4・5で使用するパーツ



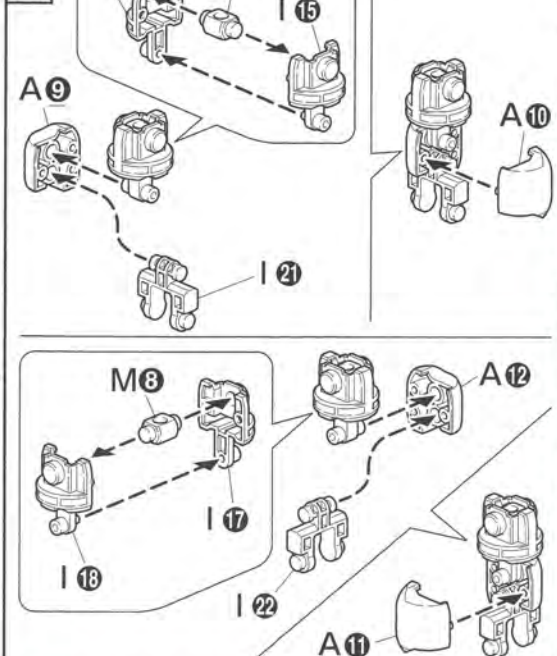
3x2 〔腕部の組立〕 〔1〕 2個作る ARM UNIT



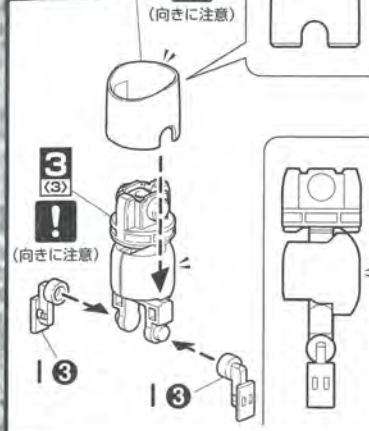
3x2 〔2〕 2個作る



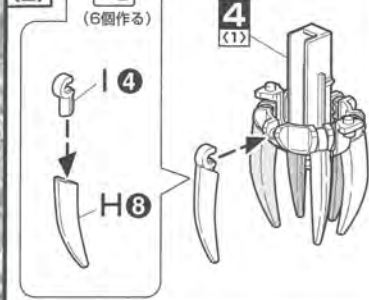
3 〔3〕



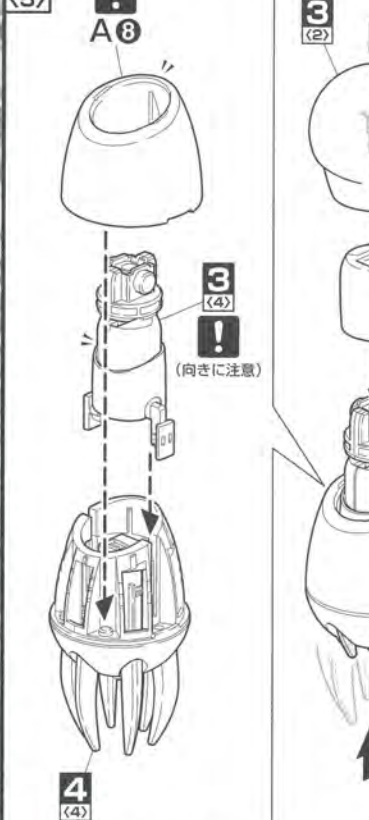
3x2 〔4〕 2個作る



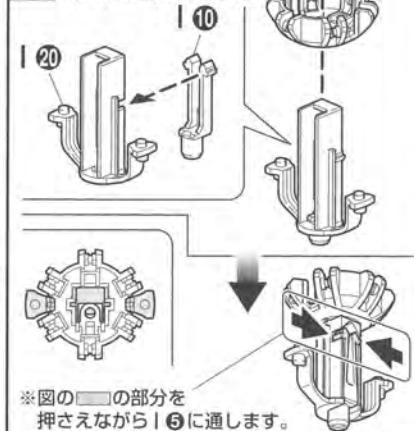
4 〔2〕



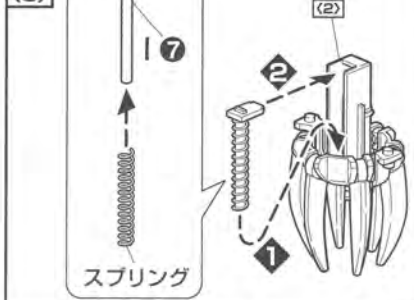
4 〔3〕



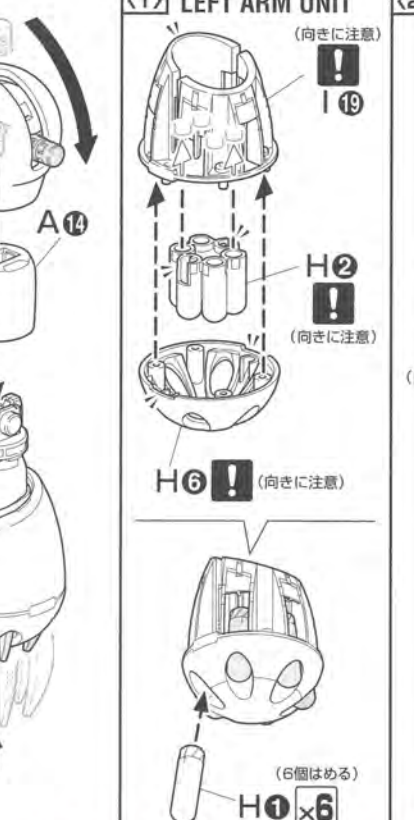
4 〔1〕 RIGHT ARM UNIT



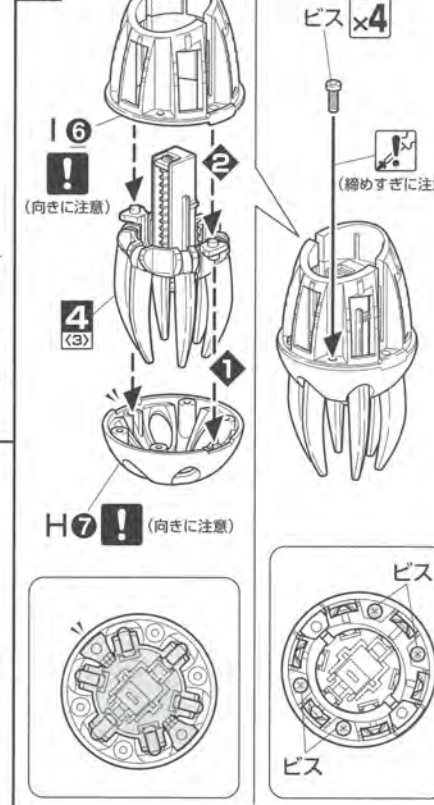
※図の□の部分を押さえながらI6に通します。



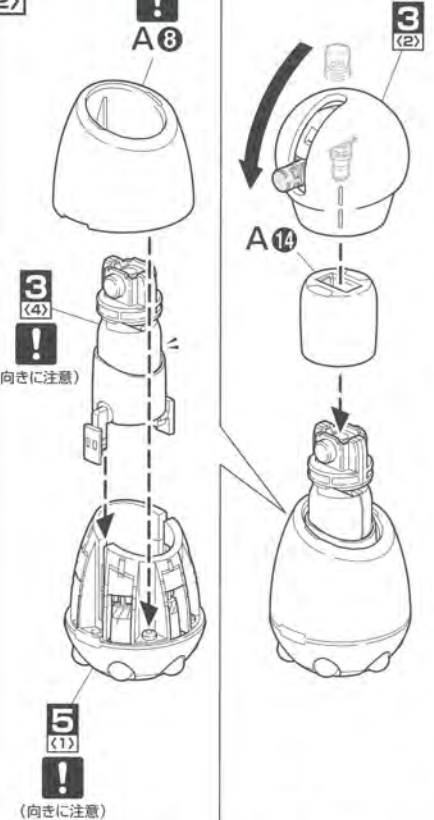
5 〔1〕 LEFT ARM UNIT



4 〔4〕



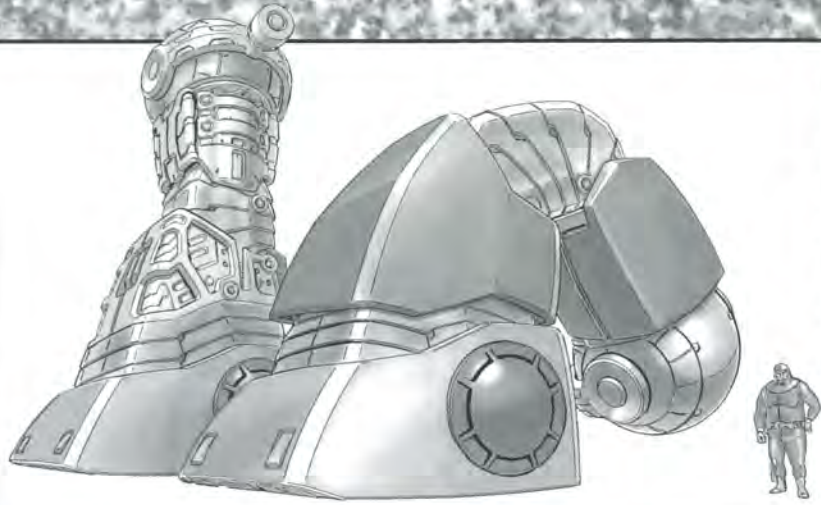
5 〔2〕



LEG UNIT (脚部)

アッガイの脚部は、歩行脚であると同時に、主要な推進装置でもある。ただし、初期の機体の足下に装備された推進装置は当初、スクリューと同等程度の速度しか得ることができなかったと言われている。ゴックと同様に、航行時の抵抗を減らすため、股関節をボディ内に引き込むことができるようになっている。

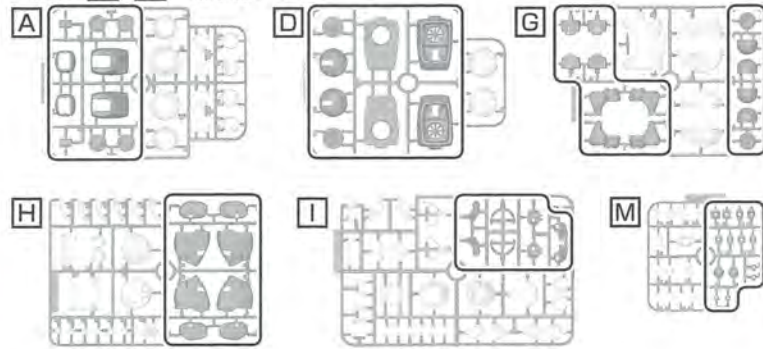
アッガイの脚部は、公国製の水陸両用MSのなかでも“歩行”に関して高い能力を持っている。なぜなら、その内部に採用されているフレームやアクチュエーターはほとんどがザクⅡからの流用であり、信頼性や耐久性は十分に実績のあるものだからである。水陸両用機でありながら、陸上において跳躍による移動や攻撃が可能というスペックは破格のものであった。また、水陸両用機の場合、肩関節や股関節がスライドする機構は、水中での抵抗を減らすためのものである場合がほとんどだが、アッガイの場合はむしろ、陸上での運動性を向上させるための機構であるといえるのである。アッガイの脚部は、“歩行脚”として必要十分なスペックをもち、逆に、水中用の耐圧殻として増加した装甲厚に対応し、内部フレームの伸縮や関節のスライド機構によって可動範囲の低下を回避しているのである。いわば、ザクそのものよりも優れた運動性を持っているということも可能なのである。そのため、多くの上陸作戦において、周辺海域の探索や陸上における戦闘を主眼とする作戦である場合など、陸戦用MSとしても運用できるアッガイの方が、トータルで見えた場合の使い勝手が良いことは言うまでもないだろう。それを支えていたのも、水陸両用機とは思えない強力な“脚”を持つアッガイならではのことができるだろう。



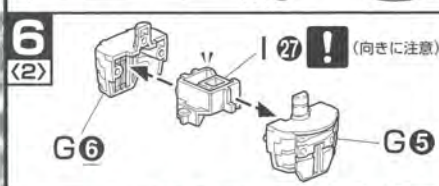
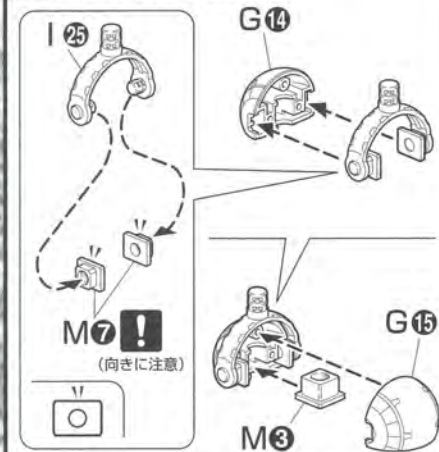
6 LEG UNIT



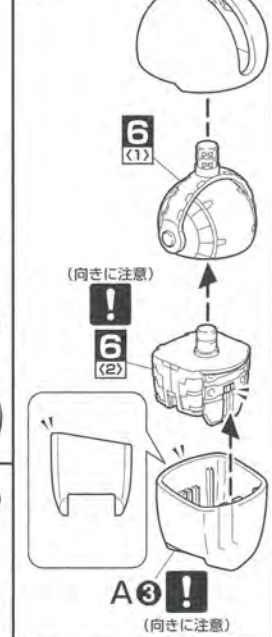
・組立6・7で使用するパーツ



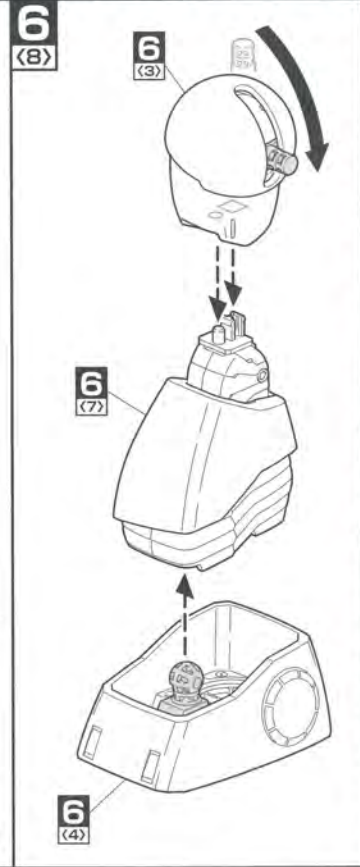
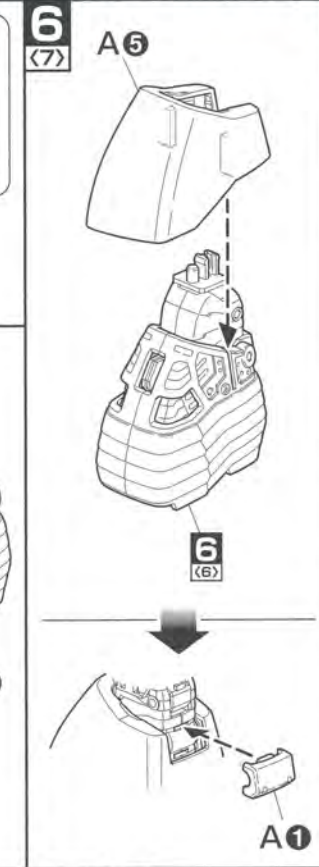
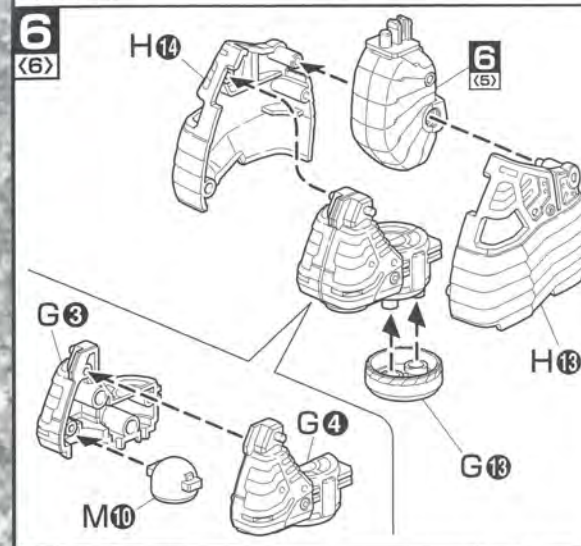
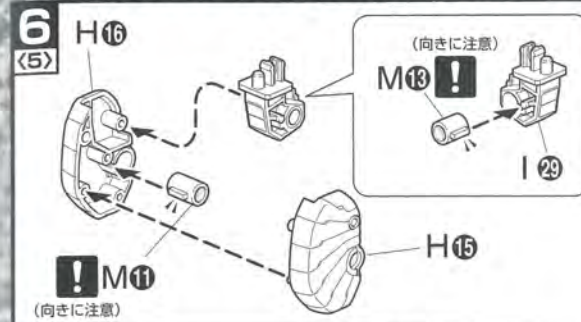
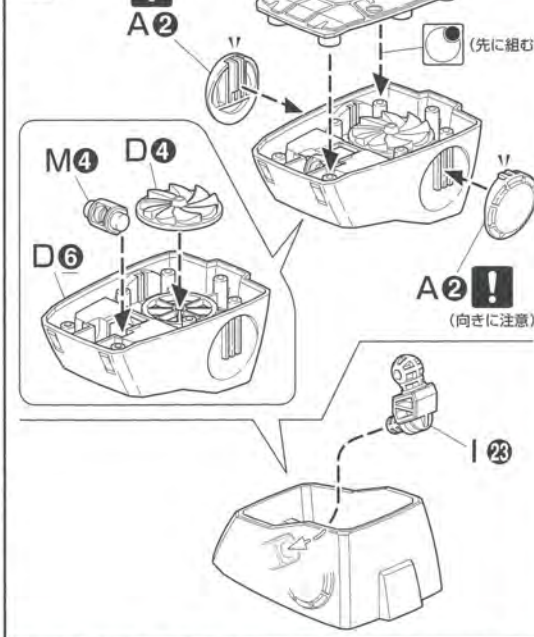
6 (1) 右脚部の組立 RIGHT LEG UNIT



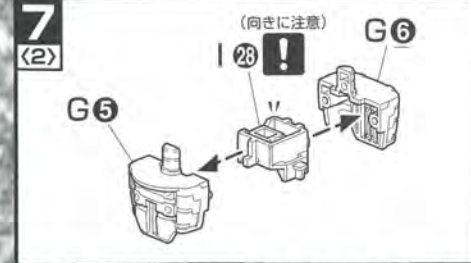
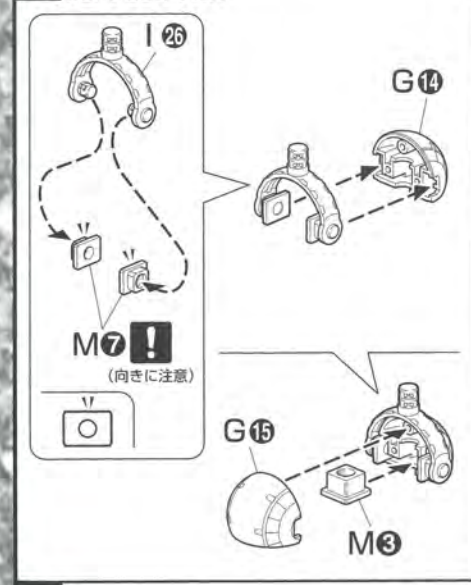
6 (3)



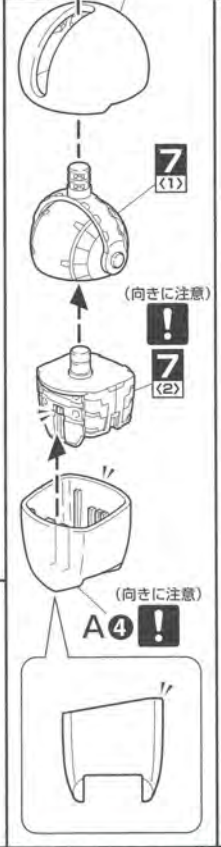
6 (4)



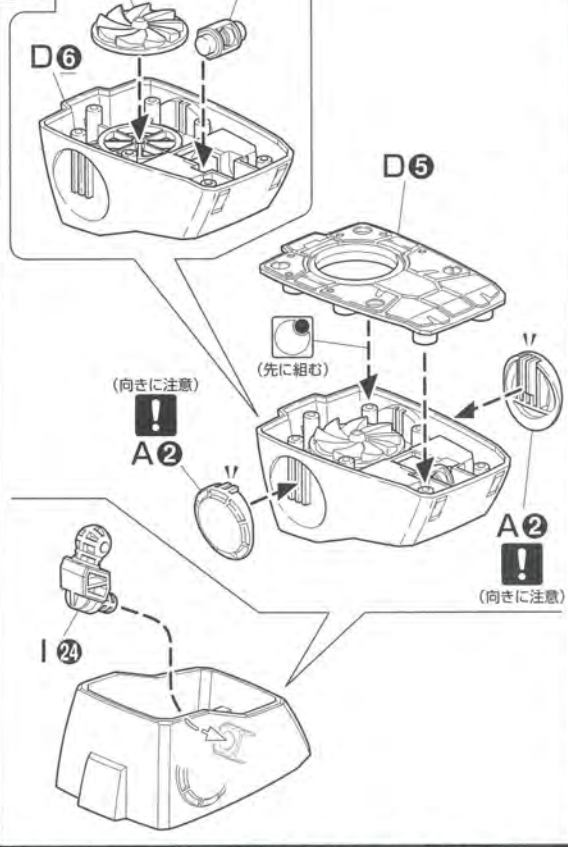
7 (1) 左脚部の組立 LEFT LEG UNIT

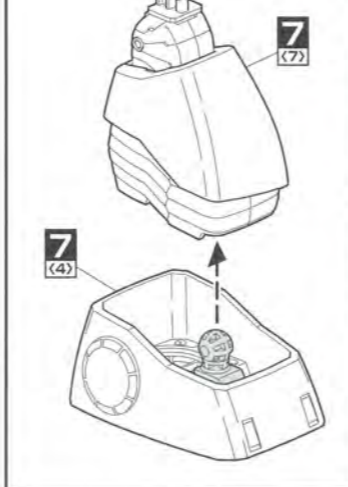
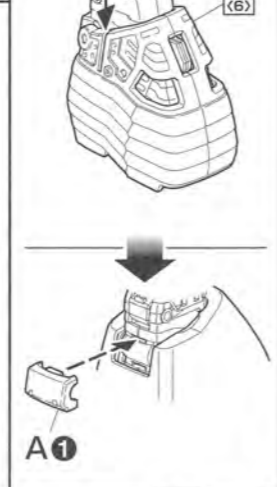
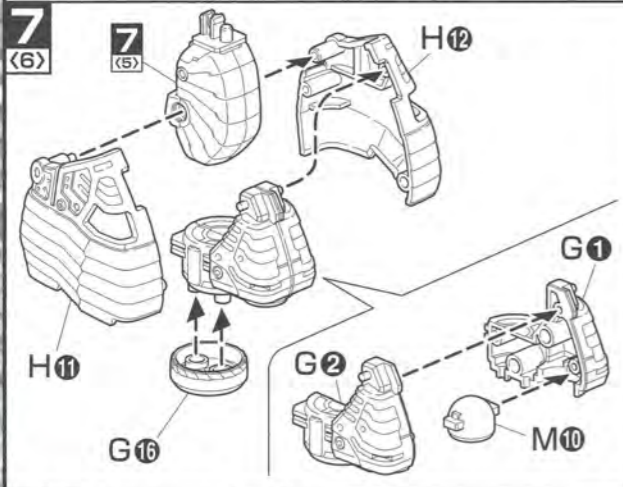
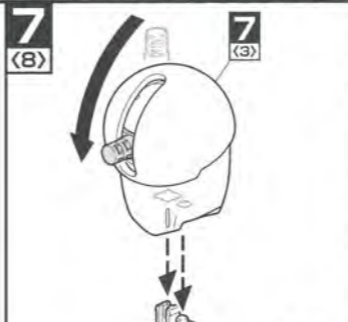
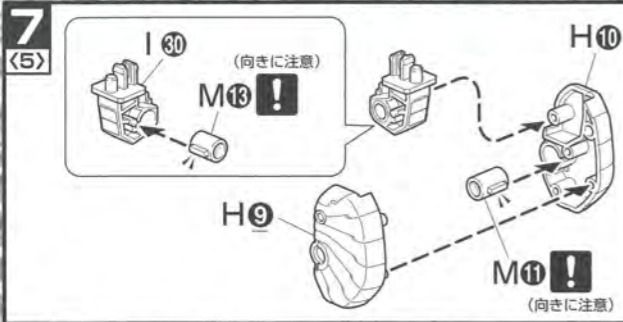


7 (3)



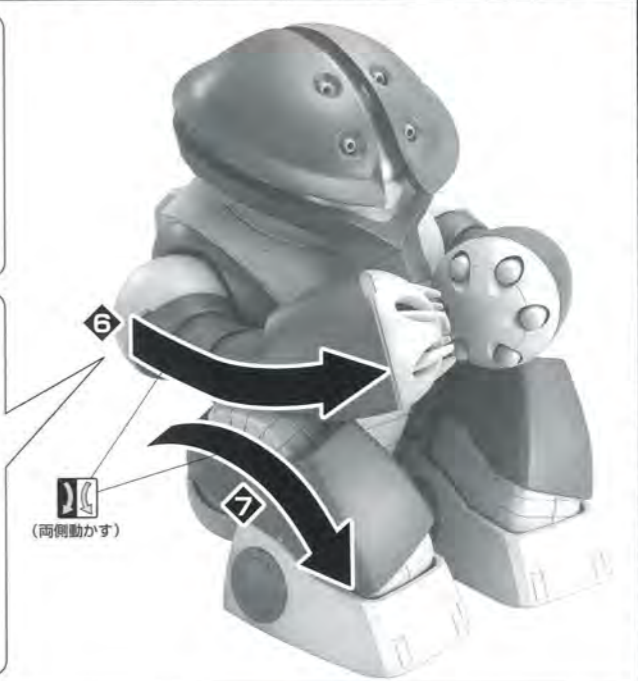
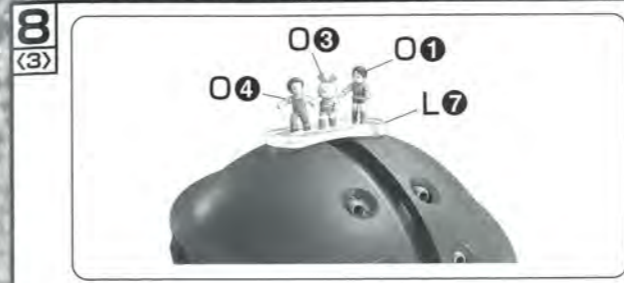
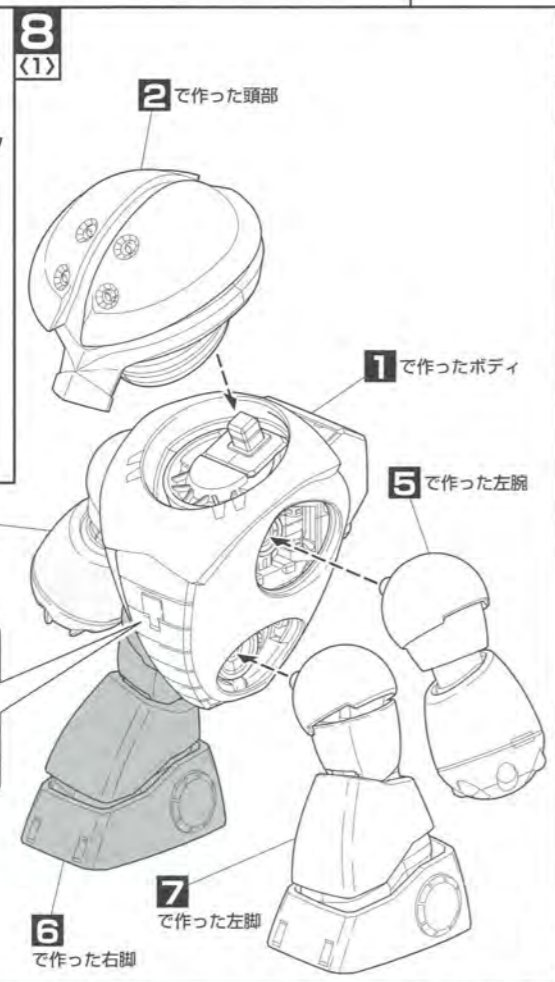
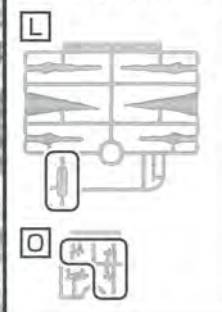
7 (4)





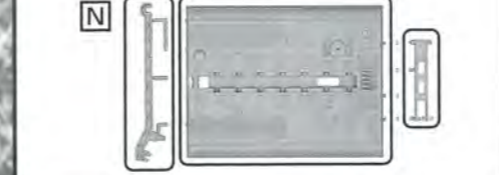
8 FINAL ASSEMBLE

・組立8で使用するパーツ

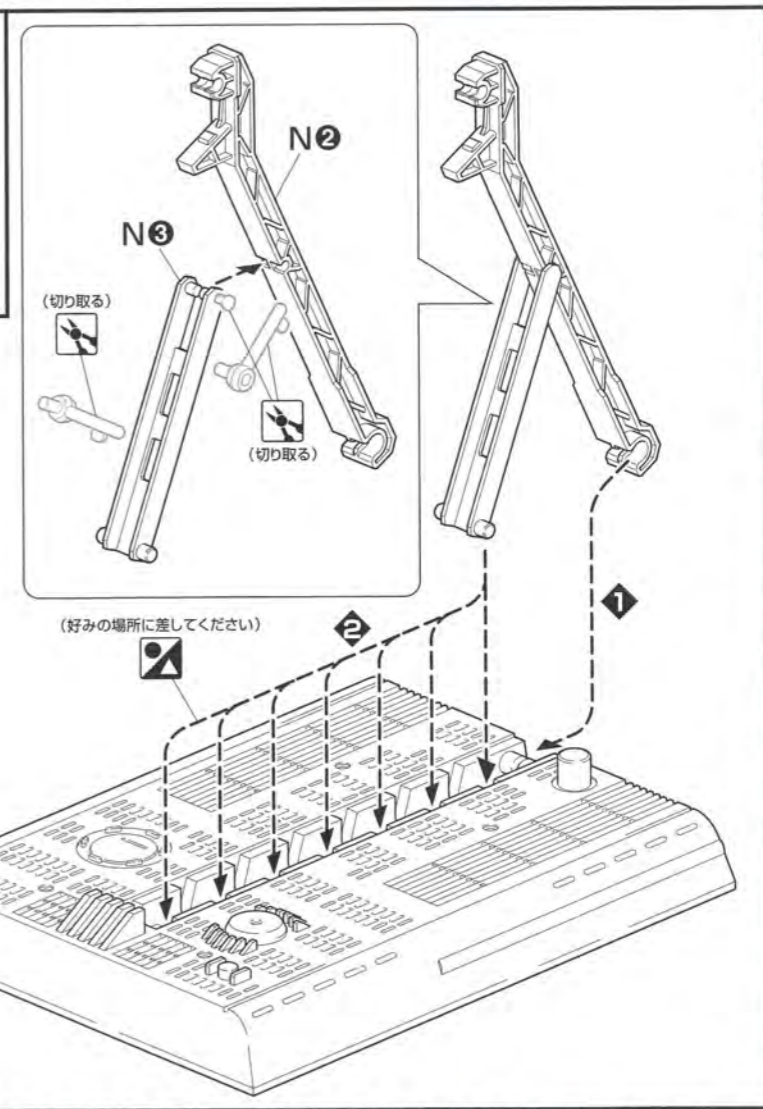


9 DISPLAY STAND

・組立9で使用するパーツ

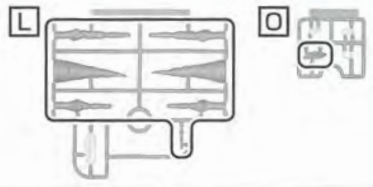


9 [ディスプレイスタンドの組立] DISPLAY STAND

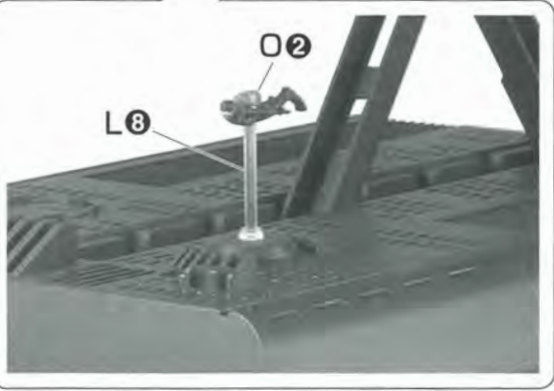
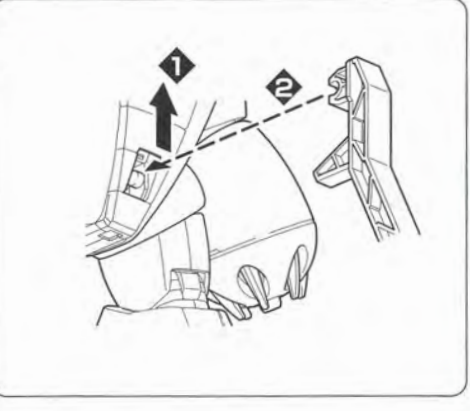
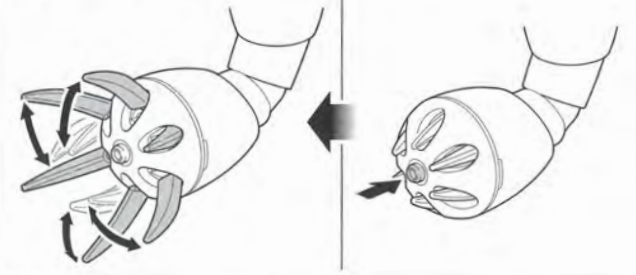


10 OPTION

・組立10で使用するパーツ



※通常はツメを出した状態で飾っておいてください。

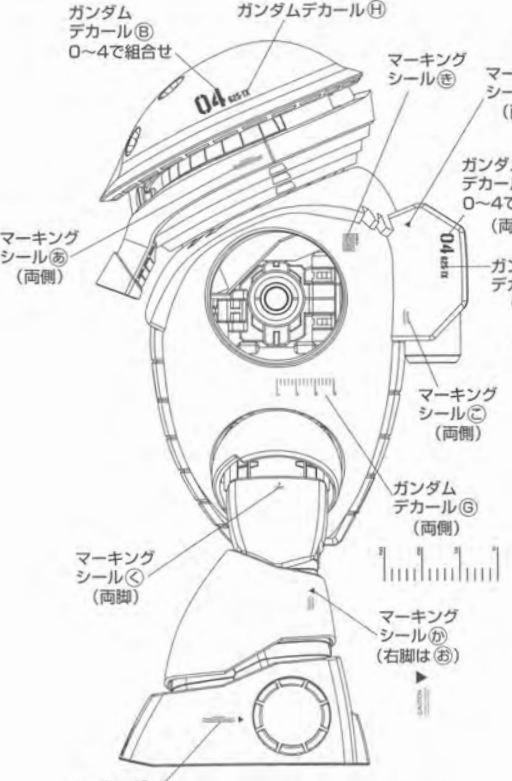
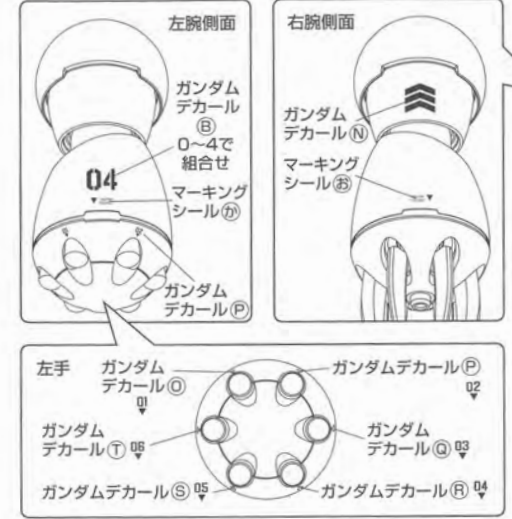


※C③は好みの場所に飾ってください。

Seal (シール) 下の図を見て、マーキングシールやガンダムデカールの貼る位置を確認してください。

- ガンダムデカールの貼りかた。
1. 転写するマークを大きめに切り取ります。
 2. 転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
 3. シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすり取ります。

このマーキングシール及びガンダムデカール指示は一例です。イメージに合わせてお貼りください。



※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。

